

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

11

明日を拓く — 成果を検証する —



■シリーズ「郷・協・興②」

◎コミュニティ・スクール

山口市CSアドバイザー
大内中学校地域学校協働活動推進員
小鱈小学校運営協議会 会長
小鱈小学校地域学校協働活動推進員

山崎 伸介
阿部正二郎

◎高等学校の連携

山口県立美祢青嶺高等学校 教頭
山口県立美祢青嶺高等学校 普通科1年
山口県立美祢青嶺高等学校 普通科1年

手嶋 如水
澤野 仁
福永 紗来
原川 依莉
園長 森 徳治

◎幼稚園の連携

学校法人鋼鈺幼稚園
学校法人香川学園
宇部フロンティア大学付属幼稚園

園長 中邑 至道
下関市烏山民俗資料館
中野元太郎
清廣 哲也

■やまぐち見てある記

■わたしの潤い 山口支部
豊浦支部

平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品

「だんご虫にもようがあったよ！さわって一緒に遊んでみたいな！」
学校法人泉学園 泉幼稚園 年中(受賞時) 大村 勇斗



あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

コミュニティ・スクールと「三方よし」



山口市CSアドバイザー
山崎 伸介

コミュニティ・スクールが核となり、地域協育ネットワークの仕組みを生かし、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する「やまぐち聖地域連携教育」。山口市では平成二十四年度にすべての小・中学校にコミュニティ・スクール（以下CS）を導入し、七年が経過しました。それまでの学校現場では保護者以外の方が授業参観や教職員研修に参加し意見を述べることなどが考えられなかったことであり、学校を開いたこのCSは山口県教育の一大改革ではなかったかと思えます。CSの理念や仕組みは広く定着してきましたが、これまでの成果と課題を明らかにすることが全国の先駆けとなるCSの充実に必要なことと考えられます。

CSの取組による成果検証にかける調査報告

平成三十年度に山口大学教育学部「やまぐち聖地域連携教育」の成果検証プロジェクトチームにより大規模アンケート調査が実施され、その分析結果が報告されました。あわせて山口市のデータをいただくことができ、より詳しい状況を分析することができました。特徴的なものとしては

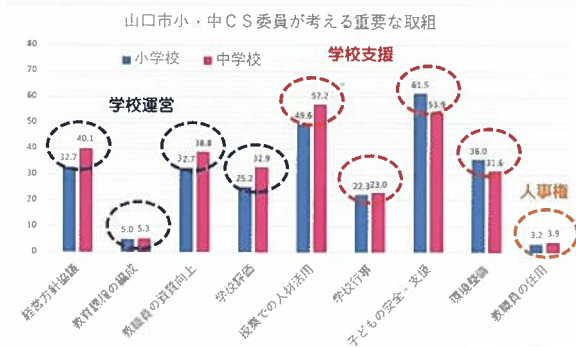
- ①CSの認知度は約五割で、保護者や住民に十分な理解がなされているとはいえない状況である。
- ②様々な意見を反映できる学校の体制作りは十分できており、協議会での熟議もかなり定着している。
- ③管理職は苦情が減ったという効果を実感しているが、教職員の約七割が多忙感をもっている。

等があります。

山口市では地域の特色を生かしたCSの安定した運営がなされていますが、取組がマンネリ化したり、学校支援が取組の中心となり、学校運営に携わるといふ本来目的が希薄になつていたりという課題も見えてきました。また、教職員の参画方法も課題の一つです。

学校教育の「三方よし」とは

七月末、滋賀県大津市で開催された日本連合教育会研究大会の地域連携教育分科会に参加しました。壮大な琵琶湖を見てみると、この地を舞台にした街や人々が、どのように栄えてきたのか知りたくなり調べてみました。近江の国は交通の要衝として商人が力を持ち、日本の経済発展を推し進めたとのこと（伊藤忠商事、高島屋、近江屋など）。その経営理念は「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」。買い手



が喜ぶ良い品物をつくるという二者間のやりとりだけでは商売は長続きしない。人々の信頼を得る商いをするためには、その地域の福祉や社会貢献につながる取組を大切にしなければいけないと、この教えを大切にし守り続けたそうです。この

話を聞いて思いました。学校教育の「三方よし」とは何だろう。それは「学校」、「子ども」、「地域」であり、その方策の一つがコミュニティ・スクールではないかと。教育は教職員と子ども・保護者の二者間だけで評価し完結するものではありません。地域がもつ特色を生かし、地域の人々の営みや願いに思いをこめた教育を行うことこそが、人を育てる上で大切なことではないでしょうか。

さらなる飛躍を

令和二年には県立学校もすべてCSが導入されます。幼保・小・中・高校と連携を密にするとともに、地域の特性に応じた「持続可能な」取組を構築することがCSの飛躍につながります。山口市は四十七人のコーディネーターを配置し、学校運営協議会委員の方々との熟議を重ね、学校・家庭・地域をつなぐ「つむぐ・つくる」活動を通じてCSの取組を推進していきます。



地域ぐるみで子どもを育むために



大内中学校地域学校協働活動推進員
(大内まちづくり協議会 事務局長)
阿部 正二郎

十年前に大内まちづくり協議会が立ち上がりました。私は、その時から青少年の健全育成や生涯学習を推進する文化教養部会の一員として活動していましたが、今年四月からまちづくり協議会の事務局で活動することになり、地域全体を見る立場になりました。そこで分かったことは、子どもたちは、地域のいろいろな方から見守られ、支えられているということです。

地域ぐるみで子どもを育もうとする取組は、大なり小なり、どの地域でも行われていることだと思いが、その地域なりの特色ある活動が、子どもの心に残るものになっていけば、地域住民の大きな喜びになるのではないのでしょうか。

大内地域では、まつり等の地域行事に、中学生が運営スタッフの一員として活動する場面をできるだけ多く取り入れようとしています。それをコーディネートするのが、私の役目だと思っています。

この夏、地域の児童生徒を対象にした防災キャンプを企画しましたが、期日の設定が悪かったのか、参加希望者が少なく、低学年児童は保護者同伴なら参加を認めて実施しました。そのことで逆に、子どもだけでなく

家族で参加することになったため、より現実的な避難所生活を体験できる機会となりました。段ボールで仕切りをつくっての寝床づくりや、給水車による給水体験等は、子どもだけでなく参加した大人にとっても初めての貴重な体験だったようで、参加者からは高い評価をいただきました。この活動も、地域の防災士や市の上下水道局の職員、消防署の職員などの協力があつたから実現できたもので、まさに地域ぐるみで子どもを育む取組の一例です。

今後は、このような活動を企画・運営していく中学生・高校生を育てたいなと考えています。



給水車による給水体験

次代を担う子どもたちのために



小鯖小学校運営協議会 会長
小鯖小学校地域学校協働活動推進員
手嶋 如水

小鯖小学校は、人口四千七百人以上で高齢化が急速に進んでいる中山間地域の、児童百七十人あまりの規模校です。

平成二十二年度コミュニティ・スクール(以下コミスク)が始まった当初苦労したことは、コミスクを地域に理解していただくこと、コーディネーターの役割を地域に根差したものにすることでした。コミスクの理解を進めるためには、多くの地域住民、公的機関、保護者等が参加する大内・小鯖協育ネットの年一回の挨拶運動は好都合でした。また、同時期、住民が協働して地域課題に取り組む「地域づくり協議会」が発足し、私も理事として参加しました。これを足掛かりに地域活動にも積極的に関わり、理解を拡げました。

ふるさとまつりでの大内中学校吹奏楽の演奏、児童の合唱披露をはじめ、中学生ボランティアがブースで地域の方と一緒に活躍する姿は、祭りの盛り上げに大きく貢献するとともに、子どもたちは自己有用感や感謝されることを体感しています。また、音楽授業では地域伝統文化「鰐鳴八幡宮の代神楽」を取り入れ、地域の偉人を知る遠足では地域の方々が生徒役となります。

私は、子どもたちが多くの経験と他者との関わりを通じて故郷に誇りを持ち、自分を大切に、苦難に立ち向かっていくことができる大人に成長してほしいと願っています。

そのために、新たな挑戦も始めています。その一つが「小鯖維新塾」です。維新の志士にあやかり、子どもたちが力強く生き抜く賢い大人に育つべく、地域全体で子どもに関わる活動です。体力作り、学習、野外体験や防災、さらには肝試しまで、地域・学校・PTAそして地域交流センターが一つになって取り組みます。もう一つの挑戦は学校運営協議会の改革です。メンバー増強と「体の育ち、心の育ち、学びの育ち」に関する三つの専門班を立ち上げ、これらを取組の柱として組織的な関わりを生み出します。

これまでの活動や拡大運営協議会等で得られた課題や課題解決の機会を新たな組織で具体化し実践する計画です。



維新塾「防災学習」の様子

地域協働型キャリア教育を通じた「ふるさと山口」の再発見



山口県立美祢青嶺高等学校
教頭 澤野 仁

めやす「ひとびと」「まちづくり」の循環モデル

平成三十年に旧美祢市、旧秋芳町、旧美東町が市町合併し、現在の美祢市となりました。市内唯一の県立高校ということもあり、地域との関わりについての期待は大きなものがあります。

地域との協働による高等学校教育は、本校が今年度より本格的に取り組んでいる事業です。地域の将来を担う人材の育成と地域振興・県内定住などの地方創生に寄与することを事業目的とし、体験活動を重視し、地域や大学と連携・協力することにより、美祢発のひとづくり・まちづくりの好循環モデルの構築をめざしているところです。

- 育成する人物像「ひとづくり」として
 - ・地域の担い手の当事者として地域課題に取り組む姿勢をもつ人材
 - ・将来の地域の担い手となるために、幅広い知識を身に付けた人材
 - ・地域と協働した取組の中で地域への誇りや愛着をもつ人材
- めざす地域像「まちづくり」として
 - ・ Mine ジオパーク事業を生かした「体験型観光地」の実現
 - ・交通の要衝に位置している地理メリットの活用

異校種間連携による「ひとびと」「まちづくり」

今年度始めの取組として、普通科一、二年次特別進学コースの生徒が、異校種間連携の取組として、市内の於福中学校で実施された公開授業「英語による修学旅行報告会」に参加し、中学生と地域の方の前で美祢市の魅力を英語で発表しました。

次に、山口大学理学部と連携した取組を行いました。今年で三年目になります。山口大学秋吉台アカデミックセンター（秋吉台科学博物館）を拠点に、理学部サイエンスサマープログラムで秋吉台を訪れた海外の大学生（台湾、中国、韓国）に対して、Mine 秋吉台ジオパークの素晴らしさを世界に向け発信する取組です。美祢市の魅力と秋吉台の地質・地形や地域の自然環境・生態系・歴史・文化などについてオールイングリッシュ（全て英語）による「ジオガイド」を行いました。

山口大学及び秋吉台科学博物館の方の指導で、大学生とともに秋吉台の長者ヶ森を歩き、秋吉台の成り立ちや石灰岩に眠る数億年前の様々な化石を見ることができました。景清洞内の実地研修では秋吉台上の夏の暑さとは違いひんやりとしていて神秘的な景観が広がり、生徒たちは、日常では味わえない体験にとっても感動し、海外の大学生とその感動を共有することができました。

秋吉台上で、大学生と一緒に昼食をとり、食後の交流会では、コミュニケーションツールの一つとして、



秋吉台を背景に海外の大学生とともに



オールイングリッシュによるプレゼン

生徒が事前に準備した英語で書いた交換カードを使用し、積極的に会話を楽しみました。

午前中の緊張した様子とは違い、和やかな雰囲気の中で、秋吉台科学博物館でプレゼンテーションを行いました。「火道切り」という伝統行事についての質問があり、少し戸惑いながらも、聞き手側のリードもあり、わかりやすく伝えることができました。

午後からの実地研修では、お互いが打ち解け合い「ガイド」というよりは、共に学ぶ仲間という、一つ上のレベルの生徒の活動を見ることができました。

実践的な語学力・コミュニケーション能力、郷土をはじめ日本や諸外国の伝統・文化を理解・尊重する態度を身に付けながら国際協調・協力が実践できる社会人になり、大学進学等の主体的な進路決定に活かし、さらに飛躍して欲しいと願います。



伝える気持ちの大切さ

山口県立美祢青嶺高等学校

普通科一年 福永 紗来

私は、英語を使って話すことが好きです。どこの国の人とでも話ができることはすごいことだと思ってるからです。そして、上手に話せなくても、発音や文法が間違っていたりも何かを伝えようとする気もちがあれば伝わるものだと思います。

英語を使って外国の方と話す機会などは、あまり多くはないため、英語を話すこと自体に抵抗を感じる人がたくさんいます。例えば、「単語が違ったら」と不安なことばかり考えてしまうことはよくあります。

しかし、考えてみてください。私たちは、頑張って日本語を話す外国の方の発音や単語が間違っていたとしても、笑うことはないはずです。そして、普段使っている言語が違うだけで、「伝えたいという思い」は同じだと思います。

今回、地域活性化型インターンシップの活動として、私たちの地元である美祢市のことを英語を使って紹介する「ジオガイド」をしました。実際に話してみると、やはり緊張で言葉が詰まりましたが、私が話すまでは待つていただき、優しく質問をしてくださったおかげで、私も積極的に話すことができました。

また、秋吉台のカルスト台地・景



英語でジオガイドを行う

清洞の魅力や地質・歴史を伝えるのは難しいことでしたが、単語を並べたり、ジェスチャーを使って説明したりすることで相手に分かってもらえて嬉しかったです。特に、秋吉台の地質の特徴であるドリーネやウバーレの難しい説明の場面では、一つひとつに伝えてリアクションをしてくださり、とても安心して楽しく説明することができました。

英語という共通の言語を通して、こんなに楽しく会話が弾み、コミュニケーションをとることができました。自分の好きな英語で大好きな美祢市のことを伝えられたことを嬉しく思います。これからも英語を学び続けて美祢市の良さを発信していきたいです。



「ジオガイド」を体験して

山口県立美祢青嶺高等学校

普通科一年 原川 依莉

私たちは、山口大学理学部サマーカーンプログラムに参加した海外の大学生に英語でガイドをしました。

私たちのグループは、まず、景清洞の入口で、プログラムに参加された海外の大学生と簡単な自己紹介をしました。その後の景清洞内の探索中は、何を話せば良いのか、どう英語で話せば良いのか分からず、思うように話しかけることができずに終わってしまいました。

昼食と交流会は、秋吉台上にあるホテルで、もう一方のグループと合流して、山口県の郷土料理である「瓦そば」を一緒に食べました。その時は、まず、海外の大学生が話しかけてくれ、そこから慣れない英語と私なりの身振り手振りで、会話をすることができました。昼食後は大学生との交流会でした。

私たちは、その交流会のために、事前に「交換カード」を用意していましたが、カードの内容から話すことができたため、短かい時間でしたが、楽しく会話することができました。

その後は、いよいよ私たちが英語で美祢についての発表をする時間でした。私の説明には問いかけがあり、そこで聞き手である海外の大学生が楽しそうに反応してくださいました。私自身も思いもよらないところにも反応が

あり、少し驚いたけど、とても嬉しかったです。大学生が反応してくれるので発表しやすく、楽しく発表することができ良かったです。

午後の秋吉台の長者が森から秋吉台上の散策では、休憩時間に大学生と記念写真を一緒に撮ることができました。その写真は、帰国されてからのプレゼンテーションに使ってくださいましたと聞き、とても嬉しかったです。私は英語が苦手だけど、これを機会に外国の方とも話せるようにもつと英語力を身に付けたいと思いました。



「交換カード」を使って和やかに交流



キーワードは「連携」 「幼・中連携を通して」

学校法人鋼鉄幼稚園
園長 森 徳治

「ぼくたちわたしたちは、今日も元気に遊びます」。
「ぼくたちわたしたちは、今日もなかよく学びます」。
「ぼくたちわたしたちは、今日もみんなに感謝をします」。

朝礼で、園児の元気な声が園庭に響きわたります。この「三つの誓い」を基に園児の一日が始まります。

本園は、下松市末武地区に位置し、近年大型店舗の出店により、交通量や人口が増加する地域の一角にあります。園庭の側には蛍が飛び交う平田川、蛙の音が賑やかな田圃もある自然豊かな環境にあります。

また、北側は県内一の生徒数を誇る末武中学校のグラウンドと隣接しており、中学生との連携が本園の特色の一つです。

春と秋の運動会のアナウンスは放送部の生徒が務めてくれます。七月に行われる「夕べの集い」には、二十名の生徒がボランティアとして参加し、バザーや屋台のお手伝いをしてくれます。夏休みには陸上部員による「かけっこ教室」、秋には家庭科の保育実習で三年生九クラス、三百名近くの生徒が五日間にわたり二クラスずつ来園し、自作のおもちやで園児と触れ合います。また、幼・

中合同の水難避難訓練も行っています。川の増水を想定し、指定避難所である中学校校舎の三階に、園まで迎えに来てくれた三年生と園児が手をつないで避難します。

初めはぎこちなかった中学生も園児と関わる中で笑顔になり、楽しむ様子が窺えます。日頃はなかなか触れ合う機会のない園児、中学生ですが、ともに貴重な体験の場となっています。

今後も「連携」をキーワードとして多様な連携を模索し、園児の健全な成長を図りたいと考えています。



中学校家庭科「保育実習」の一コマ



「ま・ほ・う」の幼稚園をめざして

学校法人香川学園
宇部フロンティア大学付属幼稚園
園長 中邑 至道

幼稚園教育要領に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されるなど、幼児教育において、子どもたちの「非認知能力」を育てることが重要視されています。その中でも自立心（自己指導能力）の育成がその後の小・

中学校での教育に大きく影響を与えるため、本園では、子どもたちの自立心を育てる3機能「**ま**かせる・**ほ**める・**う**けとめる」を生かした「ま・ほ・う」の幼稚園をめざしています。

①**ま**かせる…子どもたちに自分で考える機会を増やし、友達との関わりの中で判断力を高め、責任のある行動がとれるように支援しています。

②**ほ**める…子どもたち一人ひとりが自己存在感をもつことができるよう、一日一回ほどの子にも声をかけ、どんな小さなことでも褒め、認めることを徹底しています。

③**う**けとめる…子どもたちの話をしっかりと聴き、一緒に遊んで、子どもたちの気持ちをしつかり受け止めます。

その「ま・ほ・う」の幼稚園の基盤となるのが「人との関わり」です。子どもたちは様々な人々との関わりの中で育っていきます。本園では、総合学園の特色を生かし、学園内の大学、短大、高校、中学の実習や授業などで、たくさんの人と関わる機会を設けてい

ます。

また、地域の藤山小学校との「ハッピーこいのぼり作り」、中学校の「家庭科実習」や「地域合同避難訓練」での交流や藤山地域の「ふるさとまつり」「ゆめ音楽祭」等の地域行事への参加などで、人との関わりの範囲を広げています。

このように、小学生から大学生、地域の大人の方々まで、年間を通して様々な年齢層の人々と関わりをもち続け、「ま・ほ・う」をかける中で、子どもたちは確実に成長しています。



小学生とのハッピーこいのぼり作り

下関市烏山民俗資料館

いくつもの多面体が重なったような斬新なデザイン。この建物は、「下関市川棚温泉交流センター」（通称「川棚の杜」）です。国道百九十一号沿いの、JR山陰本線川棚温泉駅から、県道四十号を約2km内陸方面に進んだ、旅館や菓子店、浴場等が散在する街の一角に、物静かにたたずんでいます。周囲の緑の中にあつて、建物の造形美が妙に調和しているのが不思議です。この建物は、東京オリンピック・パラリンピック二〇二〇が開催される、新国立競技場を設計した建築家 隈 研吾氏によるものと聞くと納得できそうです。この建物の中に、「下関市烏山民俗資料館」が設置されています。

この資料館の前身は、「烏山工芸館」といい、地元の医師が集めていた民芸品や歴史的価値の高い生活用具等を展示し、一般に公開していた私設の資料館でした。四十年近く前に、筆者が家族で訪問した時は、広い体育館のような建物のフロアの展示台の上に、所狭しと、日本各地の民芸品や遊び道具、生活雑貨が並べられていました。「烏山」はこのコレクションの持ち主が住んでいた家の裏山の名前だそうです。

そのような工芸館でしたが、平成八年にはこれらのコレクションが旧豊浦町に寄贈され、「豊浦町立烏山民俗資料館」として開館しました。寄贈されたコレクションは五千点と言われています。さらに平成十七年には合併により「下関市烏山民俗資料館」となりました。その後、建物の老朽化も進んだことから、平成二十二年一月にこの下関市川棚温泉交流センター内に移転し、現在に至っています。

正面入口を入ると、左手展示室では、「三恵寺遊山〜川棚温泉 近代の湯治旅〜」と題して、江戸時代から近代化を遂げた川棚温泉の、開基三恵寺の様相の変化や、観光パンフレット、絵はがき、旧版地形図などによる、関門地域の盛況や川棚温泉の発展を紹介した企画展が開催されていました。

また、入口から正面に見える展示室では、烏山コレクションを中心とした企画展「電気を使わない暮らし」が行われていました。

戦前・戦後の、そう遠くない昔に使われていた生活用具が、透明な展示ケースで丁寧に展示されており、



企画展「三恵寺遊山」



正面入口側からの景観



大交流室側からの景観



「謄写原紙・鉄筆セット」の展示



企画展「電気を使わない暮らし」



建物図

「複合施設ならではの利点をどこまで活かすことができるか」ということを課題としながら、今後も所蔵しているたくさんコレクションを活用することができると、企画展を考えていきたい」とは、当資料館スタッフの村上明さんのことばでした。

工芸館のころとは異なったコレクションの扱いに、当資料館への思い入れの深さを感じました。展示品の中で、筆者が特に興味深く見入ったのは、ガリ版と鉄筆セット、謄写版原紙でした。これをご覧になると、教職OBの皆様はきっと懐かしく感じられるにちがいないと思えました。ほかにも、ろうそくを光源としていた幻灯機、発明展に登場しそうなハエ取り機など、少し昔の人の知恵に感心しながらも、妙に懐かしい思いが湧いてくる企画展でした。

住所：〒759-6301 下関市豊浦町大字川棚5180番地
川棚温泉交流センター内
TEL 083-774-3855 FAX 083-774-3856
開館：10:00～20:00（入館は19:30まで）
休館日：年末年始（12月31日～1月3日）
観覧料：無料（ただし、特別展開催時は別に定める）
URL：http://www.karasuyama-museum.jp/

終身会員の紹介

藤永 悦朗 様（下関）

お礼状をいただきました

十月号の執筆者の職名に誤りがありました。謹んでお詫びと訂正をいたします。

P8上段

周防大島町立三浦小学校

教諭 藤村 純子

教頭 藤村 純子

P9下段

山口市立生雲小学校

教諭 内山 雅司

教頭 内山 雅司

フォト五七五



山口支部

中野 元太郎

一瞬一瞬の場面を切り取り作品にすることは、俳句と写真に共通する基本的な姿勢である。しかし、俳句に詠まれた情景がいかなるものかは、本来鑑賞者の自由な想像に委ねられるべきものであろう。その俳句に映像写真を加えることは、作者の描いたイメージを強引に押し付けてしまうことになりかねない。そこが難しい。

写真と俳句のもう一つの共通点に、どちらもそれ以上説明を加える必要がないということがある。一読して句意が解る俳句は素晴らしい俳句であるし、見た瞬間感動を覚える写真には惹きつけられる。

写真と俳句をコラボさせる分野は「フォト俳句」や「写俳」などと呼ばれており、伊丹三樹彦や浅井慎平など多くの俳人が取り組んでいる。例えば浅井慎平は「写真も俳句も一級品であり、それ自体が単独でアートとして完成品でなくてはならない。その上で二つのアートが合体して響き合う作品こそが理想のフォト俳句だ」と力説している。

今年の山口県退職校長会の生涯学習作品展に、フォト五七五として四点を出品した。いざ取り組んでみると、写真と俳句の付かず離れずという微妙な取り合わせの追及に面白さは感じたが、写真と俳句がお互いに響き合うレベルまで達成できたかどうか。

フォト俳句には、写真が先か、俳句が先かというもう一つのポイントがある。私の場合は先に写真があり、それに俳句を取り合わせる手順をとった。また読みやすくするために、写真の余白に俳句を配置した。

改めて俳句と撮影場所を示す。
薫風や声澄む天使幼稚園

横顔の眩しき人の白日傘
〔サビエル記念聖堂〕

夏料理うつわに残る海の色
〔山口市駅通櫓並木〕

龍宮より届けられたる春の潮
〔元乃隅稻荷神社〕

作品をご覧になった皆様の「批評を是非仰ぎたい」と思っている。



生涯現役に挑む



豊浦支部

清廣 哲也

中学校美術教師の時、出品した絵が入選。審査員から、「時々でも東京に來れば上達する」と批評された。これ以上製作に時間をかけると、授業で生徒に迷惑をかけると、作家は諦め「絵の指導者」の道を選んだ。

在職中、社会教育主事講習で、「生涯学習の重要性」を学び、指導主事の実践で楽しさと重みを実感した。

退職後、数々の役を担ったが、心の支えは、「若い頃、社会教育の必要性を説いたお前、今その出番ではないか」との自責の念であった。

公民館で絵画教室を企画した。「絵は苦手」「不器用」と拒まれたが、「こんな人に絵の喜びを分かちてほしい」と、逆に心が燃えた。「教室が楽しい」の声で、「私の公民館でも始めたい」と願われ、二十数年経過した今では、七会場に増えた。

毎月百枚の絵入り案内状は大変だが、「先生の絵手紙が楽しみ」の声を励みに絵筆を握っている。

東北の震災後、「これなら私でもできる」と被災者に絵手紙を送り続けた。二年後、「復興初の船で捕れた魚」と、銀鱗輝く秋刀魚が届いた。

また、抗ガン剤治療者が、「来月も先生の絵が見たい。毎日眺めて頑張る」と涙の返事も届いた。絵の力は大き



毎月届ける100枚の案内状

さでなく、心があれば小さなハガキ絵でも人の心を動かすと知った。

「絵で交流が始まった」「一番苦手だった絵が、今一番の生きがい」の声に、中学校教師で決意した方針が、間違いでなかったとうれしい。

花いっぱい運動や文化活動、絵手紙や自作の紙芝居での地域興しなどが評価され、先年、山口県や内閣府から、「生涯現役」や「エイジレス」の章をいただき、今年米寿を迎えて叙勲の榮に浴したことは、本当にありがたいことである。

今後も絵を潤いとして、「私に何ができるか」を問い、「どう生きるか」の永遠のテーマに挑み続けたい。